

面

121

# 享年遊び

加 茂 達 彌

元朝の塵金色に昇天す  
神棚に塗りものはなし大旦  
橋もまた物の怪なるや春の雪  
東京や古手の富士に日雷  
遠花火明日はひとりになる二人  
大口の無口よろしき五月鯉  
この墓や花を浴びたる跡もなく  
鶏血草かの日も咲いて敗戦忌  
かぶと虫汝も玉音を聞きたるや  
吸ふて吐いてわが行末は煙草

ふふふ

北上正枝

三日はや陰陰滅滅たるニューズ  
彼の人の訛りあたたか初山河  
初東風やきしきしキャベツ剥がす音  
尻餅は不意につくもの七草菜  
ダイヤモンドダスト食欲旺盛なり  
風刺すよう鶴の一声二月尽  
絶え間なくどこかが動く鎌鼬  
ふふふふ白菜漬の水上げる  
冬薔薇乾いた音の別にあり  
人体の影の濃淡かげろいぬ

# 不在

北川 美美

手は水を掬ひにゆきぬ麦の秋  
しづかなるじやがいもの花日傾く  
白日傘脚美しく迫りくる  
欄干がくるぶし高や早草  
ゆふべと同じ秋茜かもしれぬ  
すでにある脚立と籠や林檎の木  
第三京浜より月離れゆく  
旅客機の窓ごとに顔秋の暮  
凧や狼祀る木の家に  
雪原に人のかたちの窪みあり

# 何だろう

黒川俊郎

万物は陰陽なりや秋簾  
前に行くほかにないはず雲に鳥  
右耳の喜んでゐる秋の声  
混色の果ては黒です秋薔薇  
ああも言ひこうも言ふなりががんぼは  
死神の嘶の高座神の留守  
幸せの松竹梅や栗ご飯  
遠雷や猫を描いて虎となす  
今日の日の私と影の小春かな  
風花のこぼれ来る空静かなる

# 冬木立

高 橋 龍

明の春彼の日あ或る日にあ後退あとざさり  
抜け抜け古文ガイダンスと抜かす陰毛しものけひめはじめ  
はからざる業自づからひめはじめ  
御無体もこよひはな為されひめはじめ  
雛の夜のあられもなきはあねいもと  
反り気味にふた双つ尖とんがる春の峰  
寝台車下段に涅槃したまへり  
囀りの木がいつせいにビビデバビデブ  
暮の春肉も魚もなかりけり  
海界うなざかへあぢさゐ色の砲ほづつ向け

# 師弟対談

西東三鬼  
三橋敏雄

敏雄氏



俳句よもやま



三鬼氏

# 戦時下の東京と西東三鬼

自・昭和三年（一九二八）

至・昭和十七年（一九四二）

高橋 龍編

昭和三年（一九二八）二十八歳

齒科医開業中のシンガポールにてチフスに罹り、怠慢の医院開店休業。長兄の指示に従い廃業。借財は兄達が処理。十二月・帰国の途中、上海にたちより、住居を東京市大森区入新井四丁目に移す。齒科医院を開業。

一月一日。前年十二月三十日に開業した地下鉄（浅草・上野間）に元日の乗客が「十万人」にも達した。

三月十五日。共産党への全国的大弾圧、検挙一五六八人。起訴四八三人（三・一五事件）。

四月十九日。第二次山東出兵。

五月二十日。日比谷公園音楽堂「大衆音楽大演奏会」新交響楽団（現・N響）入場料五十銭。

六月四日。張作霖、奉天到着寸前に関東軍の謀略で爆殺される（満洲某重大事件）。

七月三日。全県警察部に特別高等課設置。

同月二十八日。第九回オリンピック・アムステルダムで開催。

東京市内の水泳場、月島二〇、小松川二、吾妻町の放水路内四、品川、大森、羽田海岸一二、尾久（荒川）一、計三十九ヶ所。

両国の川開き。「人出五十万」

八月三日。オリンピックク三段跳びで織田幹雄が優勝。水泳で鶴田義行も優勝。

同月二十七日。パリ不戦条約調印。

十月二日。東京府下四百二十三校で「御真影」伝達式。同月十四日。東京六大学「早慶戦」割れ返る神宮球場。